

公民館報

発行
2023
3/30

まつもと



- 問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
- 編集 公民館報編集委員会
- 印刷 株式会社アラルト

昔のあそび

視点

⑩ 学生と住民の交流をこわい
奈川えんがわプロジェクト

奈川えんがわ
プロジェクト
Instagram



学生と住民の縁側

松本市が企画した魅力発見ゼミをきっかけに発足した「奈川えんがわプロジェクト」は、奈川地区に学生が入り込み、地域の住民が気楽に笑い合える縁側のような存在となっています。

信州大学の学生が学部を問わず、多い時には20人以上が参加しています。奈川の特産品である保平カブ収穫の手伝いや、閉園中の保育園を清掃し子どもたちと遊ぶ活動など、広く地域に関わっています。

「奈川の今をより楽しく元気に」をテーマにして、やって



代表の東大陽さん (信州大学経法学部)

みたいことに積極的に取り組みます。

何度も足を運ぶ

プロジェクトによって、学生と地域住民の交流が活発になりました。月に1〜2回の頻度で奈川に通う中で、住民とのコミュニケーションを重視しています。縁のなかつた学生たちを、快く迎え入れてくれる奈川地区住民の方々の懐の広さ、温かい人柄など、通わなければわからない良さを知ることができました。

東さんは「カブの農家さんに電話をもらって一緒にお昼を食べたこと、何度目かの訪問で子どもたちが寄って来てくれたことが思い深い」と笑顔で話してくれました。

続く交流これから

まちづくりはこうであるべき、という学生の思い込みで関わってはいけないという視点が重要だそうです。「地域」は人の営みが脈々と続いてきたもので、人生を生きるヒントが詰まっている」という東



豊かな自然の中で、保平かぶを収穫する様子

さんの言葉には、これまでの活動の密度の濃さを感じられます。東さんは、活動に関心を持つ後輩たちのために、プロジェクトを継続できる仕組み作りに取り組んでいます。

奈川地区の今を
動画に
収めました!



わがまち自慢 (芳川地区)

芳川地区の公民館報が全国入賞

「写真で表現、文字は少なく」の紙面作り

令和4年度の第9回全国公民館報コンクールで、芳川地区公民館が奨励賞を受賞しました。

前回令和2年度第8回の鎌田地区公民館に続いての入賞です。

レイアウトは大胆に

紙面レイアウトは委員メンバーが設計します。記事面積の半分が写真のスペースです。はつきりとした見出しの字体が目を引きまます。編集会議の紙面デザインで芳川地区版の魅力が生まれます。

もう一つ「芳川の今昔物語」は掲載4話となる長寿のコナーが彩りをそえます。



編集委員は10人「写真で表現、文字は少なく」を実践します

見出しは / レイアウトは / 大胆に



(令和4年9月30日号) 参考



対談を行う石井山さん(右)と向井さん

全体会

全体会では、東北大学大学院教育学研究科准教授の石井山竜平さんが「未来に託せる地域を目指す人々の学びと取り組み」と題して基調講演をしました。

東日本大震災被災地復興のプロセスから、ポストコロナにおける地域再生について考える内容で「災害時には地域社会のもととの姿が浮き彫りとなる。否定せず受け入れて、少しずつでもつながっていかばいい。地域づくりの第

未来に託さなく私たちのまちへの集い

第38回公民館研究集会 令和4年度地域づくり市民活動研究集会

テーマ
未来を切り拓く学びと自治
ポストコロナにおける地域再生

この集会は2月19日、Mウイングを主会場に開催し、午前の全体会と午後の分科会併せて、約300人が参加しました。

分科会

午後からは8つの分科会に分かれて、テーマごとに事例発表や研究発表が行われました。この中から2つの分科会を紹介します。

第2分科会ではコロナ禍により開催困難となったぼんぼんと青山様を例に、笹部地区PTAと児童会が取り組んだ

一步は毎朝の挨拶から。自ら考え行動できる力をつけていくことが大事。公民館活動が盛んな松本にはそのポテンシャルがある」などと話しました。

講演のあとは、松本大学総合経営学部観光ホスピタリティ科准教授の向井健さんとの対談があり「社会教育や公民館活動を通して、住民同士支えあう関係性が自然と育まれるということ、未来を託す若者や子どもたちに示してほしい」などと話していました。



第1分科会	子供たちの生きる力を高めるために ～地域を舞台とした体験・学びから見えるもの～
第2分科会	松本の伝統行事を次世代につなげよう！ ～ぼんぼんと青山様・三九郎～
第3分科会	「地域行事」って必要なの？ ～現代における地域行事は今～
第4分科会	顔が見える関係づくり ～気軽に使える町内公民館～
第5分科会	誰もが安心して暮らせる地域を目指して!! ～地域包括ケア・生活支援体制整備～
第6分科会	地域防災を進めるために必要なこと ～地域づくりの視点から考える～
第7分科会	ワカモノ×地域=賑わす ～若い世代の地域参加を考えよう～
第8分科会	中山間地域の持続可能な地域づくり ～奈川・四賀の事例から考える～

また「つなげよう青山様・ぼんぼん」と題した児童会新聞を作成し、町会全戸に配布しました。行事を忘れないでほしい、継承してほしいという思いがすごく伝わってきて、コロナ禍での工夫がすばらしい事例だと感じました。

第5分科会には70人が参加しました。このテーマに多く

の方が関心や悩みを持っていることがわかります。地域で実践されている生活支援や居場所づくり、NPO法人との連携による事例発表があり、高齢化、生活支援といった問題にどう取り組んでいけばよいか話し合いました。

最年少で第1分科会のコイ

朝の散歩を始めてから8年ほどになる。幼い頃から体力に自信がなかったが、近頃は随分健康になった▼自宅は三十余年前に市が造成した団地の中にある。団地の東側を降りていくと、棚状に並んだ田んぼが見通せて、田植えの時期から稲刈りの頃まで様々な景色を見せてくれる。田植えの終わった水面に朝日が映し出される様は、幻想的で絶景だと、毎年思う。時々見かけるカモの泳いでいる様子は、何ともいえない程可愛らしい▼その日の気分をコースを変えて、アルプスを遠く見渡せる展望台の方から下っていく。遊歩道に沿って植えられた様々な木々の足元には、四季折々に草花が咲いている。これらは、隣家のご夫婦が長年にわたって苗を植え、お世話をされてきたものだ。梅雨の時期には、多種多様な色のアジサイが見事に咲き誇る。小さな株も入ると200本近くもあるようだ▼こうして書いてきて、何と贅沢な散歩コースかと改めて思う。これからも里山の自然に感謝しつつ、元気を頂いて散歩に励もうと思っている。

おこひる

朝の散歩を始めてから8年ほどになる。幼い頃から体力に自信がなかったが、近頃は随分健康になった▼自宅は三十余年前に市が造成した団地の中にある。団地の東側を降りていくと、棚状に並んだ田んぼが見通せて、田植えの時期から稲刈りの頃まで様々な景色を見せてくれる。田植えの終わった水面に朝日が映し出される様は、幻想的で絶景だと、毎年思う。時々見かけるカモの泳いでいる様子は、何ともいえない程可愛らしい▼その日の気分をコースを変えて、アルプスを遠く見渡せる展望台の方から下っていく。遊歩道に沿って植えられた様々な木々の足元には、四季折々に草花が咲いている。これらは、隣家のご夫婦が長年にわたって苗を植え、お世話をされてきたものだ。梅雨の時期には、多種多様な色のアジサイが見事に咲き誇る。小さな株も入ると200本近くもあるようだ▼こうして書いてきて、何と贅沢な散歩コースかと改めて思う。これからも里山の自然に感謝しつつ、元気を頂いて散歩に励もうと思っている。

歴史探訪 探ろう松本33

笹賀地区

地区東側は奈良井川で、かつて一帯は桑畑がありました。第二次世界大戦時に造営された松本飛行場に隣接して、信州まつもと空港が作られました。

概要

松本市の南部に位置する笹賀地区は14町会、人口10、688人、世帯数4、647世帯、高齢化率は26・9%です(2月1日現在)。

歴史

笹賀地区には縄文時代からの古墳があり、古くから開けた土地でした。室町時代の今村観音堂の阿弥陀如来像(市重文)も伝えられています。1725(享保10)年、水野氏の改易で戸田氏が藩主となり、1743(寛保3)年



ステージ発表をビデオで見ると、また違う印象

以降幕府領とされ、後に松本藩預り領となりました。

地名の由来

1876(明治9)年の「長野県町村誌」に古事、捧の庄に属すと聞くとあり、笹賀地区は当初笹下村と呼ばれていました。

捧の庄はこの辺一帯にあった皇室の荘園のことです。

合併分離を繰り返す

1874(明治7)年、神戸・神戸新田・小俣・今村の5ヶ村が合併し、笹下村が誕生しました。しかし水利関係などで合併に無理があり、1879(明治12)年5つの村に戻りました。その後1889(明治22)年全国的な町村合併の流れを受け、5ヶ村が再度合併し、笹下を笹賀に変え笹賀村となりました。

時代は下って1954(昭和29)年8月、前年に施行された町村合併促進法により松

本市と合併し、笹賀地区が誕生しました。



eスポーツって五輪の競技候補なんだって!

公民館活動

コロナ禍でウォーキング大会や町会対抗グラウンドゴルフは中止を余儀なくされましたが、住民の交流を途絶えさせないように、文化祭のステージ発表を、ビデオ撮影したものを放映して、皆さんに見てもらおうなど工夫して活動しています。

コロナ前から15年以上続けている、児童の登下校見守りは56人の会員が「安全サポーター」となり活動しています。今後、eスポーツ(コンピュータを使ったゲームをスポーツと捉えた呼称)やVR(仮想現実)による疑似体験にも取り組む予定です。

また、公民館を不登校の子の居場所として「ほっとスペース笹賀」を開設する予定です。

昔の遊び

表紙について



1月17日(火) 午前9時50分~11時30分
3年ぶりに開催。今井小1年生が、地域の皆さんとけん玉、こま、福笑い、紙飛行機など昔の遊びで交流をしました。楽しそうな声が終始飛び交っており、賑やかな時間となりました。

(撮影 2023.1.17 今井公民館)

松本平の野鳥たち



ヤブサメ (2022.4 松本市中山 写真提供:信州野鳥の会)
ウグイスに近い小鳥で、尾がとても短い。全長10.5cm。全身が淡い褐色で眼上部にある眉斑は明瞭(雌雄同色)。広葉樹林で沢沿いの藪のような場所が好みで見かけることは少なく、鳴き声(シィ シィ シィ...と虫のような鳴き声)により気付かされることが多い。しかし、囀りは高音のため、高齢の方には聞き取れないことがあり、松本市の里山では夏鳥として普通だが、気がつく人は少ない。



冬季講座

町区町会 見守る目と気持ち

2月4日(土) 町区公民館にて、松本市社会福祉協議会西部地区センターの百瀬均さんと、島立地区生活支援員の松崎希佳子さんをお招きし、講義「身近で見守り・ささえあい」見守り安心ネットワークについて」と題した冬季成人講座が開催されました。40代から70代27名の参加者があり、会場は大盛況でした。

日本の人口推移は人口減少と高齢者の急増を経て、現役世代の急減への転換期を迎えたと予想されています。島立地区の高齢者数、一人暮らしの現状を確認すると、避難時に支援が必要な方が400名ほどいらっしゃる事があります。現在すでに周囲との交流が乏しくなる状況に置かれている実態を知る事が、地域ごと支援と向き合うスタート地点に立つ事だと教わりました。

松本市では、地域包括ケアシステムの構築を推進しています。まずは声がけや挨拶から

令和5年3月1日現在		
世帯数	2,891	世帯
男	3,245	人
女	3,404	人
総人口	6,649	人

共に通える交流の場に誘う事も介護予防、安否確認に繋がります。コロナ禍で後退していた交流ですが、再び支援や介護、見守り、助け合いが戻ってきています。人と繋がる事は集い、散歩や買い物先での立ち話、電話やメールなど自分に合ったものから検討し支援出来る側の住民が、力や情報を寄せ合う機会を増やす事が次の課題ですと、お話がありました。

受講者からの熱心な質問もなされ、島立全体が取り組むべき課題を深める時間となりました。



小柴町会 スマホ講座開催

小柴地区冬季講座のスマホ講習会が2月23日(祝日)に小柴公民会にて開催されました。ドコモショップ渚店から講師3人に来ていただき、スマホの操作を学びたい方々12人が参加しました。

午前の部ではスマホを使った情報検索の仕方を、午後の部ではアプリの使い方を学び

御柱

二之御柱 (町区・永田)

2月18日(土)に中老全体会議が行われました。7年で顔ぶれも大幅に一新したため大老会から指導頂く講師をお招きし、町会を挙げての本気漲る開会式に40名超が参加しました。

御柱祭山出しを成功に導く実行部隊として、安全に柱を曳行する役目を確認した後、以前に大庭町会で記録された曳き綱(ひきづな)といひきづなよいと呼ぶ方も)の製作過程を、Youtubeも活用して勉強しました。

青年会では9月から木遣の練習や采配造りが始まりました。



ました。プロジェクターで画像を写しながら、基本的な部分から応用の部分まで丁寧に説明してもらい、講師の方々に直接質問しながら、熱心に学んでいました。今後のスマホのスキルアップにつながるのではないかと思



り、年明けから、活動はより一層の熱が入ってきています。



二之御柱 修祓の儀(本見立て)

三之御柱曳き綱(ひきづな)

2月5日(日)、三之御柱の曳き綱(ひきづな)が、小柴・大庭、両地区合同で行われました。御柱前方の曳き綱は直径約15cm、長さ約60mに仕上げ、2本作ります。

同じく前方につけるひげなわは2本、後方の追っかけ綱は2本作ります。朝8時から始まった曳き綱(ひきづな)は、御柱役員、木遣り師の方々を中心に、滞りなく進み、昼頃には全て完成しました。

【各御柱の様子】



▲ 四之御柱 修祓の儀(本見立て)



▲ 四之御柱 根倒し 神事



二之御柱 根倒し



一之御柱 曳き綱(ひきづな)

保育園「豆まき会」



1月27日(金)、島立中央保育園と堀米保育園で「豆まき会」が行われました。

堀米保育園では、園児が玄関に飾った「柀いわし」のいわれを聞き、職員室で豆を炒るところを見ました。部屋いっぱいに広がった香ばしい香りに、子どもたちは「いいにおい!」「おいしそう!」と言っていました。その後は、「悪いはいねえか?」と、各保育室を訪れる赤鬼、青鬼に向かって「鬼は外!福は内!!」と、豆を投げました。

あまりの怖さに泣いてしまう子もいましたが、勇敢に鬼に立ち向かう姿はなんとも頼もしかったです。自分の中の怠ける気持ち、意地悪な気持ちなどを退治できたと思います。この一年の無病息災を祈る行事。また、楽しく元気に過ごしていけることでしょう。



堀米保育園



島立中央保育園

島立公民館図書コーナー



ご利用ください

島立公民館では玄関ロビーの奥に図書コーナーが設置されています。2月15日(水)、公民館の文化図書委員による図書の配架作業が行われました。

作業は年に2回、2月と8月に実施され、公民館の図書を市中央図書館へ返却し、新たに借りた図書を公民館図書コーナーへ分類別に並べていきます。

作業当日は、絵本などの児童書や、小説を大きな活字で組み直した大活字本など、約400冊の本が新たに配架されました。

図書コーナーはどなたでもご自由に利用でき、本を借りることができます。借りたい本が見つかりましたら、事務室の職員へお気軽にお声がけください。

島立小学校3学年 車いす体験



2月16日(木)、島立小学校で、3年生児童が人権学習の一環として車いす体験を行いました。まず、松本市社会福祉協議会の皆さんによる、車いすの乗り方、押し方の説明と実演がありました。

その後、児童は二人一組となり、乗車役と介助役を交代しながら、置かれたコーンのスラロームを通過したり、段差に見立てたマットを越えたりしました。

介助役を体験した男子児童は「車いすを押しみて、少しの力でもスムーズに進んだ。段差を越えるのが難しかった」と話し、乗車役を体験した女子児童は「段差から降りる時に、いつ降りるかわからないけれど、介助役の子が声をかけてくれて、ゆっくり押ししてくれたから安心してできた」と話してくれました。

今回の車いす体験を通じて、他者を思いやる気持ちを改めて確認する機会になったのではないかと思います。



島内・島立ふれ愛コンサート

2月23日(祝)、松本市音楽文化ホールにて「人権を考える住民のつどい 島内・島立ふれ愛コンサート」が開催され、関係者約300人が参加しました。



▲オルガニスト 原田靖子さん

近年では「地域の子どもたちが未来へ向かって明るく羽ばたく場」、「大人たちが子どもの成長を見守る場」をテーマに開催されています。

オルガニストの原田靖子さんによる演奏に始まり、島内小学校合唱部、島立小学校プラスバンド部、松島中学校吹奏楽部、高綱中学校吹奏楽部の日頃の活動発表の場となりました。



▼島内小学校 合唱部



▲松島中学校 吹奏楽部



▲島立小学校 プラスバンド部



▲アンコール 三校合同演奏



▲高綱中学校 吹奏楽部